「出産後のサポートの供給と時期について」
在英日本人の母親の調査と英国で有用なサポート資源

分担研究：妊産褥婦へのエモーショナルサポートに関する研究
ロンドン大学精神医学研究所周産医学部門
研究協力者　吉田敬子

要約：英国で出産を終えた日本人の母親を対象に、出産後３ヶ月に必要と感じられた実質的および精神的なサポートについての質問票を郵送し７０名から回答を得たので,その結果を報告した。日本から実母（児の祖母）の手伝いが得られたものは５７名（８１％）でそのうち７０％の母親はこれを育児をはじめとする実質的なサポートとして受け止めていた。一方、出産後夫からのサポートを得られたと答えたものは６０名（８６％）で、６７％はそれを精神的な支えとして受け止めていた。またサポートを受ける時期と対象については、出産後の１週間に自分の母親よりは夫からのサポートが一番欲しかったと答えていた。産婦人科スタッフ（特に助産婦）からのサポートについては母親は出産後１週間に最も必要性を感じていた。出産後の母親にとって一番相談にのって欲しかった問題は児の小児科的相談と母乳栄養の問題であったが、この現実的な問題には母親の精神的な動揺や不安が裏打ちされている（著者平成六年度報告）。以上から出産後の母親へのエモーショナルサポートは、出産直後から医療関係者と家庭特に夫の両者から必要であるといえる。

また、英国では妊娠出産に関して女性をサポートする公立機関の資源があり、これらの女性とのコミュニケーションの質的向上に努力しているのでその内容を紹介した。

見出し語：　出産直後のサポート、夫の精神的支え、英国での資源

研究方法：

１）出産後のサポートについてA4サイズ１枚の質問票（後述）を筆者が作成し、対象の母親に郵送した。対象は前年度の「妊産婦をとりまく諸要因と母子の健康に関する研究」の筆者担当の研究で対象となった在英日本人で出産を終了した母親６０名（１３８名に郵送、２６名転居、５２名返答なし、６０名回答返送）と新たに今回の調査に協力した在英日本人の産後の母親１０名、計７０名の母親である。回答結果は SPSS for Microsoft Windows 5.0 で分析した。

質問票の内容

１　回答時出産後月数

２　今回の出産は、初産、経産

３　日本からの母親（児の祖母）の手伝いの有無、それはどちらにより強いサポートであったか。実際の生活面、精神的のどちらか

４　夫のサポートは満足できるものであったか否か。前者の場合それは実際の生活面、精神的のどちらか

５　出産後どの時期に一番サポートが必要と感じたか

第１週、第２週、第３－４週、１－２ヶ月、２－３ヶ月、３ヶ月以降

６　それは誰からか

夫、母親（祖母）、助産婦や他の医療関係者、友人、その他

７　夫のサポートが得られるとした場合、以下にあげた６つの時期について最も重要と思われた順に列挙

第１週、第２週、第３－４週、１－２ヶ月、２－３ヶ月、３ヶ月以降

８　実母の場合も同様に時期を順に列挙

９　助産婦や医学関係者については産後第何週がもっともサポートが必要だったか

１０　出産後特に困ったこと（相談に乗って欲しかったこと）を以下から２つ選択

児の小児科的問題（おうだん、体重減少や増加）、母乳栄養やミルクの与えかたについて、児の夜泣きや育児一般、母親自身の乳腺炎や出血などの身体の問題、母親としての迷いや育児の自信や不安、上の子の問題、夫婦間の問題、自分の母親との問題、助産婦や保健婦や医師との関係（言葉の壁の問題は除く）、その他、全く問題はなかった

１１　今回の出産を振り返って女性としてほぼ満足しているか否か、また母親としてはどうか

2）英国の NHS （ナショナルヘルスサービス）に属し妊産婦へのサポート活動をまとめた報告書をもとに各機関へサポートの内容に関する資料を筆者に郵送してもらう依頼をし、返答を得た。今回はそれらを列挙して紹介した。

結果：

1 質問票回答の結果

1 回答時出産後月数 1－32ヶ月
平均14、7ヵ月（1SD＝8、3ヵ月 ）

2 初産47名（67%）、経産23名（33%）

3 祖母のサポートあり57名（81%）、実際の生活面のサポートと受けとめた：40名（70%）、精神的なサポートと受けとめた：17名（30%）

4 夫からのサポートが得られたと受けとめているもの60名（86%）、実際の生活面のサポート：20名（33%）、精神的なサポートと受けとめた：40名（67%）

5 サポートが最も必要だと感じた時期
第1週27名（39%）、第2週15名（21%）、第3－4週14名、（20%）1－2ヶ月10名（14%）、3ヶ月以降4名（6%）

6 サポートは、夫から37名（53%）、自分の母親から25名（36%）医療関係者から5名（7%）、その他から3名（4%）一番欲しかった。

7 夫からのサポートが欲しいと感じた時期は出産後第1週、第2週、第3－4週、1－2ヶ月、2－3ヶ月、3ヶ月以降の順で出産後早い時期から順に必要とされていた。

8 実母からのサポートの時期も同じ順位で必要と感じていた。

9 助産婦や医療関係者からのサポートは46名（69%）の母親がが出産後第1週に一番必要と感じていた。

10 出産後の母親の問題として最も相談したかった内容は児の小児科的問題と授乳であり45名（73%）、第2には出産後の母親の産婦人科的な身体の問題（14名、22%）であった。

11 出産後に64名（91%）が女性として、65名（93%）が母親として満足を感じていた。

2 英国のサポート資源について

The Expert Maternity Group が 1993年にマタニティサービスにおけるコミュニケーションサービスの活動についてNHS のマタニティケアの機関を対象に実態調査を行った。電話調査約1000件、手紙での調査600通を経て120以上のコミュニケーション例を得てまとめた。それをさらに筆者が抜粋したものを列挙する。以下は各機関が妊産婦に対して工夫して行っているコミュニケーションサービスである。

－母親学級における妊婦への遺伝相談の対応
－初産の妊婦に対する説明書の作成
－助産婦の役割を説明したパンフレット作成
－妊娠を考えている女性への妊娠前クリニック
－妊婦の適宜の相談に予約なしに常時受け付ける相談室
－マタニティーケア勤務の助産婦や医師の執筆によるマタニティーサービス新聞発行
－10代の妊娠の多い地区にできた妊娠クラブ
－36週の妊婦のための助産婦運営のコーヒーモーニング
－流産、死産、新生児死亡の結果に終わった女性のためのガイダンスサービス
－AIDS と出産に関するパンフレット作成
－英語を母国語としない妊産婦のための多文化コミュニケーションサービス
－多胎妊婦のための情報サービス
－聾唖の妊産婦に対応できる助産婦を訓練するための教育パッケージの 作成
－男性パートナーのための妊娠以前の健康（喫煙、飲酒、労働環境、薬物など）に関するパンフレット作成
－分娩出産スタイルの要望を妊婦に選択させるためのバースプラン情報案内と妊婦の分娩室での助産婦への要望書き込み用紙の作成
－母乳栄養キャンペーン
－精神障害のある妊産婦のケアをする助産婦の特別チームの作成

各機関が現在ある人的資源（主に助産婦）を活用して、産婦人科的な医療技術以外に、妊産婦へのサポートを目的としたコミュニケーション活動に興味のあるスタッフが、それぞれの地域や勤務している場所の特徴を活かして運営している機関が多い。

考察：在英日本人の出産後の母親を対象にした調査では、毎日遭遇する海外での生活や出産の不自由やストレスを考慮するとき、出産後に自分の母親から受ける育児をはじめとする実質的なサポートが最も望まれると予想していたが、実際は出産後早期の第1週から夫の精神的なサポートを母親は望んでいたことが明らかになった。出産後の夫の精神的サポートや円滑なコミュニケーションは母親の育児の疲労と緊張を輪やらげ、後の母子関係つまり、母親の児に接する対応もより受容的になるという報告がなされている。

また、出産後は第1週の半ばか終わりに母親は自宅に退院するが、この時に助産婦をはじめ医療関係者は母親

自身と児についての問題のある例または授乳や育児に対して質問や不安がある例は速やかに対応するのみでなく、母親の気分や気持ちを聞き、退院後もサポートする姿勢を示し、コンタクトを開いておくことが必要と思われる。

英国には、妊産婦とのコミュニケーションの質的な向上をめざして数々の手作り活動があり、これを紹介した。基本は、医療関係者と妊産婦の person to person の関係であり、good communication practice が good health care practice になるという理念にもとずいている。なにもおおがかりな予算と大勢からなる人材による組織は必要とされていない。これには、英国のmental health にかける予算の限界の問題もあろうが、組織的でおおがかりなサポートシステムをとると、前述した person to person の理念からはずれやすいという逆説的な結果を生じる危険性もあるからだと思われる。日本には日本独特のコミュニケーションスキルを求められるが、その基本は妊産婦の声を良く聞きそれを受け止めることにおいては、全く他国と変わりはないことも最後に付け加えたい。

文献：(1) Changing childbirth partll: Survey of Good Communications Practice in Maternity Services, Department of Health (eds) HMSO Publication Centre, London, 1993 (2) Crnic KA et al : Amer J Orthopsychiat, 54(2):224-235,1984 (3) Brunelli SA et al : Merrill-Palmer Quaeterly, 41 (2):152-171,1995

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:英国で出産を終えた日本人の母親を対象に、出産後 3 ケ月に必要と感じられた実質的および精神的なサポートについての質問票を郵送し 70 名から回答を得たので,その結果を報告した。 日木から実母(児の祖母)の手伝いが得られたものは 57 名(81%)でそのうち70%の母親はこれを育児をはじめとする実質的なサポートとして受け止めていた。一方、山産後夫からのサポートを得られたと答えたものは 60 名 (86%)で、67%はそれを精神的な支えとして受け止めていた。またサポートを受ける時期と対象については、出産後の 1 週間に自分の母親よりは夫からのサポートが一番欲しかったと答えていた。産婦人科スタッフ(特に助産婦)からのサポートについては母親は出産後 1 週間に最も必要性を感じていた。出産後の母親にとって一番相談にのって欲しかった問題は児の小児科的和談と母乳栄養の問題であったが、この現実的な問題には母親の精神的な動揺や不安が裏打ちされている(著者平成六年度報告)。以上から出産後の母親へのエモーショナルサポートは、出産直後から医療関係者と家庭特に夫の両者から必要であるといえる。 また、英国では妊娠出産に関して女性をサポートする公立機関の資源があり、これらの女性とのコミュニケーションの質的向上に努力しているのでその内容を紹介した。